

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農地整備課長 高橋 裕司 電話番号 0852-22-5149

事務事業の名称	一般農道等整備事業	
目的	(1) 対象	農道を利用する農家等
	(2) 意図	農産物輸送の効率化を図る。
事業概要	・道路網が未整備で農産物輸送に多大な労力を費やしている地域において、基幹農道整備事業、一般農道整備事業、心るさと農道整備事業等を効率的に実施する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	農道の供用開始延長	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	農道整備において工事及び事務手続きが完了し、農産物輸送や一般交通が可能となった延長を指標値とする	目標値		48,900	51,600	53,700
			実績値	45,300	48,900	50,900	51,800		
			達成率		100.00	98.60	96.50		%
式・定義	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,770,964	2,170,339
うち一般財源 (千円)	74,255	97,455

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・事務事業の対象である33地区のうち、27地区が平成26年度までにすべての区間の供用を開始しており、継続の6地区についても順次部分供用開始していく予定である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・事業完了及び部分供用開始により、農産物や一般交通にとって利用可能な農道延長が着実に増加している。
 ・市町村事業との共同施工などにより建設コストの低減を図った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・国の平成26年度農業農村整備関係予算は対前年の72%であったが補正等により県の所要額を確保できた状況。
 ・しかし、平成27年度は県の所要額を大きく下回る内示額となり、予定どおりの事業進捗が図れない状況。

②困っている状況が発生している「原因」

・平成25年度及び平成26年度は補正等の追加割当を含めて予算を確保していたが、平成27年度は補正等の追加割当の見込みがない。

③原因を解消するための「課題」

・既存の国庫事業を活用だけでなく、同一目的の他の国庫事業への移行などによる予算の確保を検討する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・全地区において、一層の建設コストの縮減に努めて事業執行を行う。
 ・道路整備に不可欠である予算の確保については、新規拡充事業への移行などにより所要額の確保を目指す。
 ・国庫事業と県単事業を効果的に組み合わせることで、事業の進捗を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）